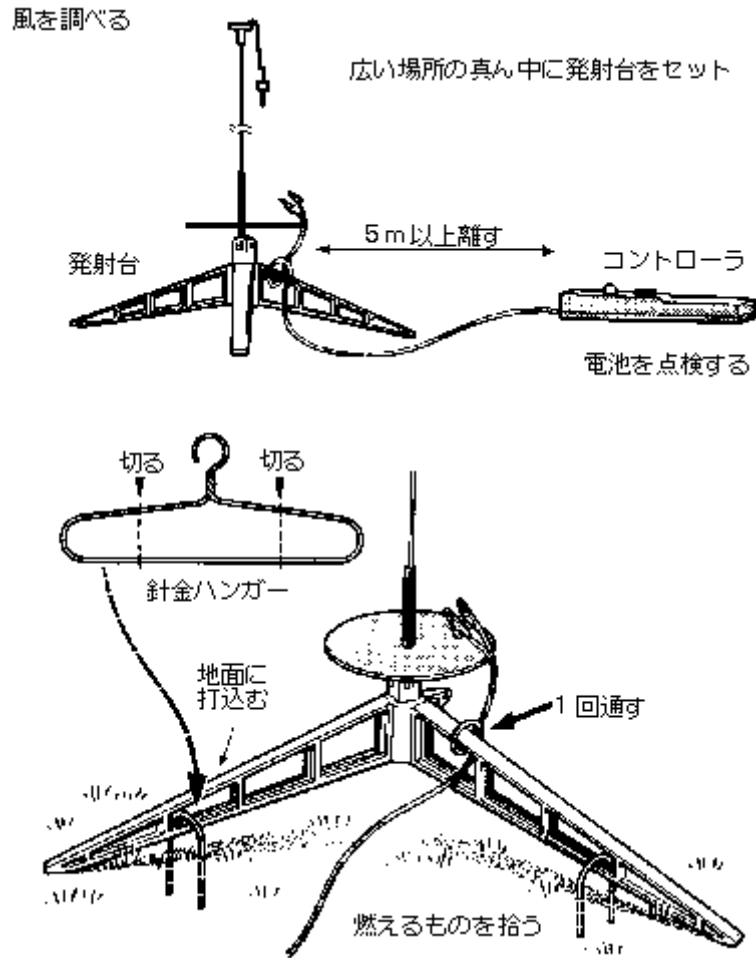


モデルロケット打ち上げまでの流れ

(1)ランチャー(発射台)組み立て



補足

針金ハンガーは特別必要ありません。

セーフティキーをコントローラーに差し込まないとスイッチを押しても作動しません。

(2)エンジン取り付け

- ①エンジンをモデルロケット後部に差し込み、上からテープで止める。

(3)リカバリーワディングの入れ方

- ・リカバリーワディングは不燃紙のことでエンジンの上にセットします。パラシュートがエンジンの熱で溶けないようにするためのものです。

- ①リカバリーワディング1枚を手の中で軽く丸め、ボディからショックコードを全部引き出し、ボディの中へワディングのボールを全部そっと入れます。
決して指で無理に入れようとしないで下さい。ボールの広がろうとする力がボディチューブの内側をそっと押す程度にするのがポイントです。
- ②ボールが全部入ったら、ボディチューブの先端に口をあて、息でボールを奥へ吹き込みます。

(5)イグナイター(点火器具)の取り付け

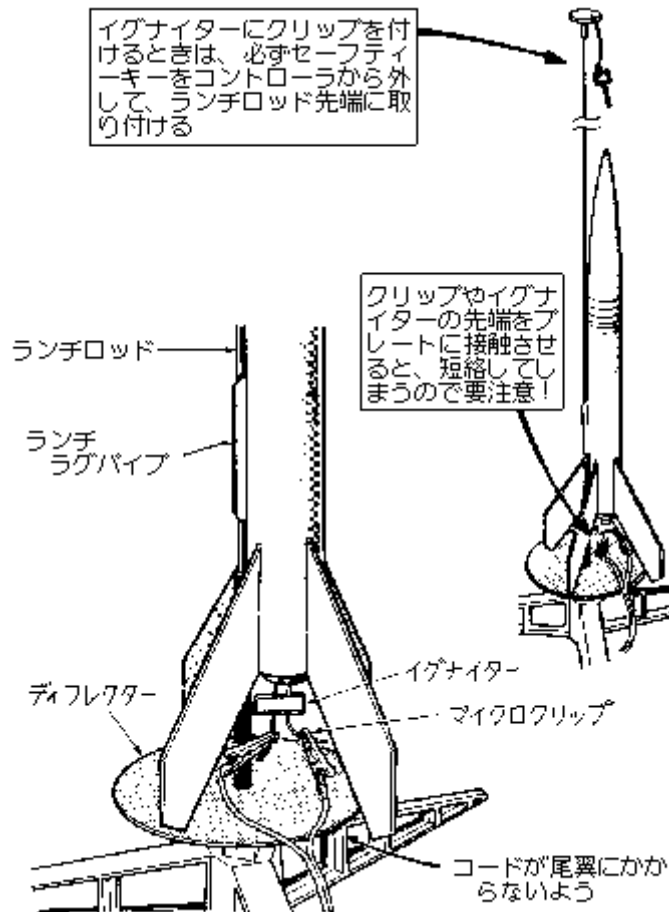
- ①イグナイターの先端の黒くなっている部分をエンジンノズルの中心口奥まで差し込みます。あまり、強く押すと、発火薬が破損したり、イグナイターの脚線が曲がってしまいプラスとマイナスが接触し、ショートする可能性があります。
- ②奥まで差し込んだら、エンジンにそって脚線を直角に折り曲げ、イグナイターキャップをエンジンノズルに入れ、固定します。脚線の先は少し広げ、Wの形に曲げると、発射台にセットした時にマイクロクリップが取り付け易くなります。

補足

脚線部分はストローの位置と正反対のところに位置するようセットします。

(6)モデルロケットの発射台へのセット

- ①ストローを金属棒に通しセーフティキーをランチロッド先端に取り付ける。
- ②クリップをイグナイターの脚線に取り付ける。



(7)カウントダウン

- ①発射コントローラーを持ち、セーフティキーを差し込みます。
- ②点火者は発射台から5 m、見学者は20 m以上離れます。
- ③点火者は上空確認と周囲確認を行います。
例：「上空よーし!」、「周囲よーし!」
- ④「3、2、1」のカウントダウンの後スイッチを押し、モデルロケットを発射させます。
- ⑤ロケットの着地した地点を確認したらセーフティキーをコントローラーから外し、静かに発射台へ行き、セーフティキーの安全キャップをかぶせた後、歩いて着地した地点まで行きます。

不点火の場合

エンジンの点火を失敗した場合は、直ちにセーフティキーを外し、そのまま2分間待ちます。その後、発射台に近づき、コードの断線、接触不良、ショート、電池の容量不足、イグナイターのショート・破損、フローティングなどの原因を調査します。この時、エンジンノズルを直接覗き込まないよう注意が必要です。

イグナイターを外し、発火部を点検します。もし、燃焼していればフローティングです。燃焼もせずに、破損もなければ、ショートか断線、接触不良、電池の容量不足などが考えられます。原因が特定できたらイグナイターを再装着して再打ち上げを行いません。

安全で楽しい打ち上げをしてください。